

洋14-28 (ショートコメント)

「キック・アス/ジャスティス・フォーエバー」 ★★

2014 (平成26) 年2月23日鑑賞<TOHOシネマズ西宮OS>

監督/脚本: ジェフ・ワドロウ

原作: マーク・ミラー、ジョン・ロミータ・Jr 『キック・アス2』 『ヒット・ガール』

デイヴ・リゼウスキー (キック・アス) /アーロン・テイラー=ジョンソン

ミンディ・マクレイディ (ヒット・ガール) /クロエ・グレース・モレッツ

クリス・ダミコ (マザー・ファッカー) /クリストファー・ミンツ=プラッセ

サル・パートリーニ (スターズ・アンド・ストライプス大佐) /ジム・キャリー

ドクター・グラヴィティ/ドナルド・フェイソン

インセクトマン/ロバート・エムズ

ナイト・ビッチ/リンディ・ブース

ブラック・デス/ダニエル・カルーヤ

マーティ・アイゼンバーグ (バトル・ガイ) /クラーク・デューク

トッド・ハインズ (アス・キッカー) /オーガスタス・プリュー

マザー・ロシア/オルガ・カーカリナ

悪役のザ・トゥーマー/アンディ・ナイマン

ハビエル/ジョン・レグイザモ

マーカス・ウィリアムズ/モリス・チェストナット

アンジー・ダミーコ/ヤンシー・バトラー

ケイティ・ドゥーマ/リンジー・フォンセカ

ブルック/クロディア・リー

2013年・アメリカ、イギリス映画・103分

配給/東宝東和

◆クロエ・グレース・モレッツ扮する美少女「ヒット・ガール」を主人公にした『キック・アス』(10年)が大ヒット。そう聞いたため、続編たる本作を観ようか観まいか大いに迷ったが、結局試写はパス。しかし今回は、西宮OSで『スノーピアサー』(13年)を観た時間の関係で本作も観たが、やっぱり時間のムダに近かった。

ハリウッドの「アメコミもの」には飽きてしまった私は、最近の『アベンジャーズ』(12年)は観ていないし、近々公開予定の『アベンジャーズ2』(15年)、『アメリカン・スパイダーマン2』(14年)も観る気がしない。また、『ロボコップ』(14年)の試写にも行っていない。クロエ・グレース・モレッツがジェニファー・ローレンスと共演した『早熟のアイオワ』(08年)は近々鑑賞予定にしていたところ、『キネマ旬報』3月上旬号の「クロエ・グレース・モレッツ または最強の思春期」という記事もあって本作を鑑賞したが、やっぱり、この手の映画はもうノーサンキュー。

◆前作で「ヒット・ガール」として大活躍したミンディは、今回は第一線の活動から手を引き、真面目な高校生として生きようとしているようだが、さてそれはいつまで続くのか? そんなミンディにイライラしながら、少しずつ「キック・アス」として成長していくのが、同級生の男の子デイヴ(アーロン・テイラー=ジョンソン)だが、こちらの活動は見ていても頼りない感じが強い。さらに、そんな若者(ガキ?)たちの「志」を一本の矢にまとめ、まちの平和のため、正義のための活動に精を出そうとするのがスターズ・アンド・ストライプス大佐(ジム・キャリー)だが、これも見ていて何となく危なっかしい。

本作中盤は、主役である「ヒット・ガール」のド派手なアクションを封印したそんなストーリーが展開していくから、見ていて少しいライラ感も・・・。

◆町と市民の安全と正義のためにアイマスクをつけてコスプレ変身し、ボランティアとして活動するという若者たちの「志」は立派なもの。しかし、そんな「ガキ」たちがあまりたくさん集まってくると奇妙なものだ。しかも、「正義」派のみならず、悪(ワル)の方もマザー・ファッカー(クリストファー・ミンツ=プラッセ)を中心に、カネにまかせて集まってくると話はややこしい。しかして、本作ラストはまるでヤクザの「出入り」のように、正義を叫ぶコスプレ集団と悪の栄えを叫ぶコスプレ集団との死闘になるが、さてその結末は・・・?

『ウエスト・サイド物語』(61年)は恋愛がらみのためにやむなくシャーク団とジェット団の「対決」に至ったが、本作のようなハナから正義VS悪の激突はあまりに単純すぎるのでは・・・。